

## 特集レポート

2024年8月21日に、あいち人権センター企画展講演会「ハンセン病を正しく理解するために」を愛知芸術文化センター（名古屋市東区）にて開催しました。

愛知県・愛知県藤楓協会制作のDVD「今、伝えたいこと～愛知県出身ハンセン病療養所入所者の証言記録～」を上映するとともに、牛嶋渉氏（国立ハンセン病資料館事業部社会啓発課）をお招きし、講演を行っていただきました。

講演では、「ハンセン病問題を考える」と題し、国の間違った政策による、患者やそのご家族等への人権侵害についてお伝えいただきました。

ハンセン病患者を県内から排除しようとした「無らい県運動」の実態をお話いただき、差別は、人生そのものに回復できないほどの被害をもたらすことや、誰もが差別意識があることを理解したうえで、相手の気持ちに寄り添って行動することが大切であると気づくイベントになりました。



▲ 講師の牛嶋渉氏



▲ 講演会の様子

## ご案内

国立ハンセン病資料館では、講師を派遣し、ハンセン病問題に関する講演を実施しています。10名以上の団体であれば、どなたでも無料でご利用いただけますので、是非ご利用下さい。

問合せ先：国立ハンセン病資料館 事業部社会啓発課

電話：042-396-2909（代表）

URL：<https://www.nhdm.jp/services/group-study/>

E-mail：lecture@nhdm.jp

## ホームレスの方への理解を深めましょう ～ どうしてホームレスになってしまうのか ～

愛知県内のホームレスの方の数は、2024（令和6）年1月の調査で110人が確認されました。これは初めて全国調査が行われた平成15年1月の調査の2,121人から2,011人の減少となっています。現在確認されているホームレスの方の多くは名古屋市など大都市圏に偏っている一方、いくつかの市町村でも、少数ですがホームレスの方が確認されています。

どうしてホームレスになってしまうのでしょうか？その生い立ちには、幼いときに家族を失ったり、病気やけが等により仕事を失ってしまったなどの背景がある場合もあります。そして、困難な状況になったとき、誰にも相談できないまま、社会から孤立してしまい、結果として住む場所までも失ってしまった場合があります。一度住む場所を失ってしまうと、再び元の生活を取り戻すには多くの問題を解決しなくてはなりません。

多くのホームレスの方は、各種の支援施策や生活保護などを活用し、住まいを確保し、ホームレスから抜け出すことができました。しかし、それだけでは、社会から孤立している状況に変わりありません。地域や社会の中で生活をするためには、社会や人とのつながりを作っていくことが必要となります。

ホームレスという問題への理解を深めて、ホームレスの方を生まない社会にしていけるためには、私たち一人一人が考えていくことが大切ではないでしょうか。地域で生活する私たちもお互いに支え合い、助け合える関係にあることがとても大切です。そのうえで、自分の中にある偏見と向き合い、誰もが暮らしやすい社会を目指して、私たちに何ができるかを考えていきましょう。

